

産業保護の必要上又は外國より輸入するに當り特別なる協商をなしたる場合には之を増減し得るものとす。

斯くの如く關稅に對して附加税を課する此の新システムは最近外國に於て改正稅率を適用せらるゝを以て外國貿易上緊急事項として制定せられるものと思はせらる。而して外國に於て伊太利貨物に重税を課せらるゝに對抗したる至極妥當なる政策なるが一方に於て外國の競争防禦の意味のみに非ず、現在世界的危機に瀕する内國事業保護の色採を帶ぶる者なり戰前に於ける對外國通商法規は輸入制限、輸入禁止等の如く特別なる法令を以て變更せられたるを以て今は殆ど無効に等しく從て改正稅率の出現は必然的の結果に依るものなり。

北米合衆國と伊太利間の通商は極めて親密なるものにして伊太利の國産オイル、レモン、香油、絹等に對しては米國は特殊の處理をなせる者なれば伊太利は米國輸出品即ち鐵鋼並に機械類に對しては最低の附加税を課するは明かなり。併し茲に除外例を設くることなく、徒に附加税其者が改正の眼目なりとせば今回の改正稅率は甚だ苛酷なるものと云ふべし。

伊太利に於ける課税は凡て金貨リラを以て支拂はざるべからず、然るに現時は紙幣を使用す、此の紙幣價格は金貨相場の変動するに従ひて變化す、相場の変動は毎二週間に於て大臣より發布せらる、本年八月十五日より同三十日間に於ける金貨相場は紙幣の四五二パーセントなりき。依て鋼塊の金貨に於ける稅率は五四リラなれば、紙幣に換算する時は二四四・〇ハリラとなるなり。

今北米合衆國より伊太利に輸出する鐵鋼類に對する重なる關稅率項目を列擧すれば左の如し。

| 品目 | 一〇〇珎に付稅率 (金貨リラ) | 附加稅率 (金貨リラ) | 合計 (金貨リラ) |
|-----------------------|-----------------|-------------|-----------|
| 鐵、滿俺、鉛、銅、亞鉛等の鑛石 | 無、稅 | | |
| 鑄造又は鋼製造用銑鐵 | 一・二五 | 二五 | 四・三七五 |
| 滿俺含有量一五—二五%以上の銑鐵 | 一・七五 | 二五 | 六・一二五 |
| 合金鐵九〇%以上の金屬 | 四・〇〇 | 五 | 六・〇〇〇 |
| 精鍊鐵 | 三・〇〇 | 八 | 五・四〇〇 |
| 鋼塊 | 三・〇〇 | 八 | 五・四〇〇 |
| ブルーム&シートバー | 七・〇〇 | 五 | 一・五〇〇 |
| 鋼軌條 | 七・〇〇 | 一〇 | 一四・〇〇〇 |
| 層鐵材 | | | |
| 凡ての種類鐵鋼層 | 一・〇〇 | | 一・〇〇 |
| 薄板層 | 一・〇〇 | | 一・〇〇 |
| 分塊層、軌條層、ブルーム層 | 三・〇〇 | 五 | 四・五〇 |
| 等凡て五〇〇珎以下のもの | 一・〇〇 | | 一・〇〇 |
| 鐵層 | 一・〇〇 | | 一・〇〇 |
| 鋼棒、板、管等は製品の方法並に等級に依りて | 一〇〇珎に付 | | |
| 一二乃至三〇金貨リラの稅率とす。 | | | |

改造中の獨逸鐵鋼業

(コール・エステツプ氏述、アイアン・ト) (リード・レヴュー、二一年七月七日)

獨逸は恢復の機運に向つてゐる。國は死地を脱し更に客年勃發したる帝政主義者及共產主義者の擾亂に害せられず、將又平和條約の齎したる經濟上の直接結果をも凌ぎ來りて、今やライン以東の大チュートン國は再び輝き始め昔日の生氣を盛り返さんとしてゐる、特に外國貿易に於て彼は天才の銳鋒を現はしてゐる、目下の鐵鋼輸出額は年一百万噸の率を示してゐるが、又生産と能力との比率に關しても、獨逸は今迄敵

とせる何れの國よりも上に位してゐる。労働界の空氣も比較的善良であつて、労働者は平穩を保ち良好なる成績を擧げてゐる。

大戦の末期殆んど破壊し盡されたる獨逸の鐵道は過ぐる二年間に於て復舊せられ、現在に於ては相當貨物の運搬に應ずる程に至つた亦衣食住状態も總べての階級を通じ、特に労働階級に於て頗る改善せられ、日を追うて社會状態は鞏固を加へてゐる。一括して言へば、獨逸の産業状態は良好にして漸次善化し行くものゝやうであるが、獨逸繁榮の影は其の實體よりも大である。舞臺は全然一變せりとは言ふものゝ尙昔日の悪役者殘存して演じてゐる。

余は改造中の獨逸特に其の鐵鋼業に關して、僻見なき調査を遂げんが爲め客年初めに踏査したるライン以東の地を精査する目的を以て最近再度の旅に上つた。されば本記事に於ては、昨年中及本年三月迄に起れる變化の概要を述べ、併せて現時の状態より推して獨逸鐵鋼業の趨勢を再び論究せんとするものである。故に本記事は昨年四月八日十五日二十三日の本紙上に掲げたる論文の追加と思考せられたし。

一、當面の問題

獨逸當面の問題は輸出能力である。此れに關聯して思考すべき諸項中には生産状態あり、賃銀あり、價格あり、労働状態あり、政府の態度あり、此等の諸事項に就き次に概説すべし。

鋼の生産額は増加しつつありて、目下年約六百四十萬噸の率を示してゐる。昨年の鐵鋼輸出額は百六十萬噸に上り、獨逸の事情より考ふれば實に見事なる記録と云ふべきである。

労働状態も良好にして失職者數甚だしからず、賃銀は爲替相場の結果他國に比し極めて低廉であつて、熟練製鋼職工は一日僅に一弗一五仙を受くるのみである。鑛石の價格は高からずビルバオルピオ鑛(五〇%)はライン諸港渡、噸六弗四〇仙を稱へ、炭價又低廉にして噸三弗七〇仙、爐用骸炭も安値を稱へ噸五弗二五仙の相場である。政府は輸出貿易の振興を劃し極力之れが獎勵に努めてゐる。從來の鐵鋼製品輸出價格管理は廢止せられた。賠償に關する五月の最後通牒に依り獨逸が協商國に支拂ふべき財源に資する二割六分の輸出税は遠からず之を政府に於て引受くるに至るべく、而して税金は總べて人頭に割り當て鐵鋼生産者のみの負擔とせぬであらう。然れども物には兩面あつて、獨逸は再び西方の列強と比肩する迄には、突破せざるべからざる極めて多くの難關を有して居る。實際獨逸は隆盛に向ひつゝあるが各國は其の恩澤に與かるべく、特に合衆國は裨益する所あるものゝやうである。尙本年半ばの獨逸の實狀を調査すれば、一九一四年の戰爭氣分の再發に就ては恐らく何人も懸念する必要があるまい。

カイゼル主義の徹底的顛覆並に民主政府の設立が長足の進歩を以て改造せられてゐる、工業界の勢力を助けて居ることは萬人の認むる所である。然るに專制政治が獨逸の爲めに穿ちたる狼狽は極めて深く短日月にて此れより逃れ出ることは不可能である。

以上述べたる所は特に獨逸鐵鋼業に關するものであつて、斯業は今や進取的敏腕家の率先に依り指導せられて急速に勢力を加へてゐる。例へばクルップ會社は一九一九年に於て其の歴史上初めて損失を招きたるも一九二〇年に於ては、配當

する程には行かなかつたが兎に角利益を擧げて居る。戦後獨逸鐵鋼業恢復の大體は之れに依りて窺知することが出来る、鐵鋼業の進歩状態は既に枚擧したが併せて其の障碍特に輸出界に於ける難關とはそも如何なるものであるか。

産額は輸出の基礎である。若し國を疲弊せしむることなく絶えず輸出せんと欲せば、常に生産を過剰ならしむることが必要である、此の點に關しては獨逸目下の鐵鋼生産状態は望ましさものでない。何となれば其の産額は頗る僅少にして一九一三年の千九百萬噸に比し、僅か六百四十萬噸にて輸出に振り向くべき剩餘は極めて少量に過ぎないからである。

二、價格問題

世界の列強中獨逸のみは未だ曾て價格下落問題に就き眞面目に攻究したことがない、其の結果目下鐵鋼業界に於ては從來爲替相場の低廉に依り享け來つた莫大なる價格の利益を失つてゐる。本年五月に於ける鑄物銑の平物價格を當時の爲替相場に依り弗に引き直せば次の如くである。

| | |
|---------------|-------|
| 獨逸 | 二三弗七五 |
| 白耳義 | 二三弗一〇 |
| 合衆國 (ヴァレー第二號) | 二三弗五〇 |
| 英國 | 二六弗 |

此の背面には、客年よりも貸銀率餘程高く、而して本年引下げらるゝ見込のないと云ふ事實が伏在してゐる。

獨逸の輸出貿易上には此他多くの困難がある。將來は間接に課税せらるゝに至るべしとは云へ、輸出品に對しては今日より二割六分の税金を支拂はねばならぬ、これ更に價格の利益を減殺するものである。今日迄獨逸は比較的課税輕き方

あつたが巨額の賠償支拂に應ずる爲めには、將又政府經費の大不足を埋合す爲めには、工業に課せらるゝ税金の増加するは避くべからざることである。

問題を概括して言へば、獨逸の輸出特に鐵鋼及機械の輸出貿易は爲替相場の低率と低廉なる貸銀と燃料の廉價と政府の援助と相俟つて好況を呈して居るが、就中勞働状態良好であつて各人喜んで勞務に勉勵しつつあることは輸出貿易好望の主因をなすものである、然ども本年貸銀引下げの望無きことと獨逸の價格が隣接諸國の價格下落に因り比較的高きこと、及び増税の必要と更に運賃率を引上げざるべからざること、並に二割六分の輸出税負擔等は相合して前述の利益を相殺するものである。加ふるに石炭の産額は戦前の三分の二、鐵鋼の産額は三分の一を擧ぐるに過ぎない、事情斯の如きであるから譬へ獨逸は世界の競争場裡に在りて再び昔日の地歩を回復しつゝありとは言ふもの、貿易界に於ては以前帝政府が佛、白の頭上に攻撃の矢を放つた戦前の商益に比すれば頗る寡少の利益に甘んぜねばならぬ、這是次の説明に於て更に一層明瞭である。

一九一三年及戦後三ヶ年の獨逸の銑鐵並に鋼塊の産額は第一表に示してある、昨年及本年分の産額數字は獨逸主要鐵鋼業協會理事の發表數字に基くものである、政府の統計は事實の公表が賠償問題に關する獨逸の要求を害せんことを恐れて一九一九年十二月以來祕密に附せられてゐる、然れども第一表に掲げたる數字は前述の筋より得たるものであるから確なるものと見て差支へはない、此の數字に依りて見るに本年の獨逸鐵鋼産額は諸外國と共に同じ理由に依りて減少してゐる

が其の減少額は諸外國の分より少である。

第一表 鐵鋼生産額と輸出額

| | 銑 | 鐵 | 鋼 | 塊 | 鐵鋼輸出額 |
|-------|------------|------------|-----------|---|-------|
| 一九一三年 | 一九、三〇〇、〇〇〇 | 一八、九四〇、〇〇〇 | 五、六六四、〇〇〇 | | |
| 一九一九年 | 六、二九〇、〇〇〇 | 七、七七〇、〇〇〇 | 一二五、〇〇〇 | | |
| 一九二〇年 | 七、五〇〇、〇〇〇 | 八、〇〇〇、〇〇〇 | 一、六〇〇、〇〇〇 | | |
| 一九二一年 | 六、〇〇〇、〇〇〇 | 六、四〇〇、〇〇〇 | 一、〇〇〇、〇〇〇 | | |

備考 一九二一年の數字は年初五ヶ月の數字を土臺として推算せるもの

這是戰爭の爲めに産業疲弊し戦後の産額低減し居れる爲めである。尙戦前の産額と今日の産額との差頗る大なるものあるが、亦第一表の數字は休戦以來獨逸が殆んど鐵鋼の産額を増進し居らざることを證明してゐる。アルサス、ローレンヌの喪失を計算に入れて獨逸今日の生産能力は年千三百萬噸であらねばならぬ戦争終熄以來獨逸鐵鋼工場の作業能率は僅に能力の五割に過ぎざる有様である、一九一九年及二〇年に於ける其の原因は主として燃料及鑛石の缺乏に在つた、此等の原料は今尙幾分か不足してゐるが現在に於ける産額減少の主因を爲すものは註文の缺乏である。輸出の見地より産額を考察するときは消費額を計算に入ることが必要である。一九一三年に於ける獨逸の鐵鋼消費額は約千五百萬佛噸に達してゐる。領地の喪失に依り獨逸は消費額よりも其の生産能力を一層多く剝奪せられたが後者の減退率は約三〇パーセントである。然れども新獨逸の平時消費額が今日千二百萬噸を多く下るや否やは疑問である。此の數字と現在生産能力との差は年百萬噸を超えない。輸入額を計算に入るとして（昨年は約四十三萬五千噸）理論上より推したる獨逸現在の輸出能力

は年約百五十萬噸位である。獨逸は此の數字を超過する程目下輸出貿易の爲めに内國の需要を犠牲に供してゐる。昨年行はれたるが如き商策は單に或る期間繼續し得るのみである。現在獨逸は比較的輸出額の大なると、産額の少なるとに依り内國の需要額を著しく奪ひ取られてゐる。

斯の如きは戰敗の結果萬不得已ものである、即ち賠償金は素より之を支拂ふことが出来ないからである。觀じ來れば獨逸の輸出能力には一定の制限があつて結局輸出に振り向け得べき量は、客年約六千萬噸を消費したる世界の鐵鋼業界に微少の影響を與ふる位である。

三、輸出割合の減退

なぜ獨逸現在の輸出額が昨年に比し著しく減少してゐるかの理由は此の物的制限中に見出すことが出来る。余は亦市場好況の下に在りて昨年の輸出額が僅に生産額の二割を算し（戦前は三割）同時に現在の輸出額が現産額の一割五分に過ぎざる原因も此の物的制限中に在りと信ずるのである。序に英米の輸出額を觀るに英國戦前の輸出額は産額の五割を算したが一九一九年には二割五分に、二〇年には三割に減じ本年の最初三箇月間には五割七分に増加した、米國戦前の輸出額は産額の約八分を算し一九二〇年には一割乃至一割一分であつたが本年の最初三箇月間に於ては一割五分以上に増加した、主要生産國中獨り獨逸のみが其の割合を増加することが出来ない様である。換言すれば、獨逸は世界の貿易上に其の勢力を永久に波及する以前先づ高爐及び製鋼所を増設せねばならぬ、何となれば突差の間に製鐵能力の三割を奪ひ去られてゐる國は他にないからである。

世界の鐵鋼貿易に於て獨逸將來の地位を廣く論ずる時には産額及び輸出すべき剩餘額が主なる問題であるけれども焦眉の問題としては市場狀態特に價格は最も重要視すべき要素である。目下世界を通じて一時的とは云へ供給は需要を超過してゐるので獨逸は自己の工場に廉く之を買込むに就ては又とない好機會に遭遇してゐるのである。尙獨逸の製鋼所及び機械工場に於ては爲替相場及其他的の事情に依り製品を廉く賣出すことが出来る様になつてゐる。

價格を制限する主要なる素因の一は貸銀である、獨逸の貸銀は外國より觀れば馬鹿らしい程低廉であるが、這是主として馬克の價值低廉なるに因るのである。馬克は本年になつて若干騰貴の傾向を示してゐる。尙獨逸は世界中に於て貸銀の下らない唯一の國である。されば獨逸の製造業者が此等の點に於て有する利益は今其の最頂點に達してゐるやうである。

四、實際の貸銀は戰前に比して低廉

一九一四年獨逸の鐵鋼及機械工場に於ては未熟練工に對し一日五馬克五〇、熟練工に對し七馬克を支拂つたが一九二〇年三月には前者には三八馬克、後者には五〇馬克を支拂つた（一九一四年の馬克の相場は二四仙、一九二〇年は一仙）而して作業時間は一般に九時間半より八時間に短縮せられたのである。昨年三月頃より各國は貸銀の引上げを中止し始めたが獨逸は然らず、引き続き通貨膨脹の鞭撻に依り貸銀は増進を續け遂に今日に於ては未熟練工は五五馬克、熟練工は七五馬克の貸銀を受くるに至り同時に馬克の相場は一仙半以上に騰つた。弗に換算して説明すれば獨逸の未熟練工は一日三八仙熟練工は五十仙を貰つて居たのが今日では前者は八八仙、

後者は一弗二千仙を受くるやうになつた。右の貸銀と雖も諸外國に比すれば尙馬鹿らしい程低廉ではあるけれども其の上向きの傾向は重要視すべきものである、何となれば、獨逸にては貸銀昇騰しつつあるに引きかへ米國に於ては普通労働者の貸銀は一日五弗〇六より四弗〇五に引き下げられ、又英國に於ける鐵鋼業の從價貸銀率は減少して或る場合に於ては六割も引下げられたる所もあるのである。世界財政の平均漸次回復するにつれて各國の勞銀が一樣に成り行くことは之れ自然の數である。故に獨逸は今が機に乗ずべき秋であつて製造業者は此の機を逸せず何物かを成さんとするやうである。

然れども製造業者は一人として本年貸銀を引下げ得る望を持つてゐない、理由は實際の貸銀が戰前に比し低廉であると云ふに在るが斯くの如きは列強中獨り獨逸あるのみである。這は取りも直さず戰敗の結果であつて又兌換券濫發の一結果である。現在獨逸に於ける馬克の購買價值は戰前の約六パーセントに過ぎないが爲め目下七〇馬克を得る機械工は僅に四馬克二〇の戰前購買力を有するのみである。一九一四年には一日七馬克（作業時間は稍々長かつたが）を貰つて居たので戰前に比すれば今の境遇は非常に割が悪い。されば機械工一日の産額が戰前に比し二割五分乃至三割少を示して居ることは此の點より觀れば譬へ職工に多少ボルシエヴィズムの氣分あつたとは云へ敢へて怪しむに足らないのである。

不自然なる現時の通貨標準は獨逸の能率に就て實際以上の誇大觀念を與ふるものであるが結局眞の判斷標準は勞力費に在るのである。例へばヅツセルドルフの一鑄造所は一九一三年に於ては、六馬克（約一弗五〇）の勞力費を以て鑄鐵管を製

造したが今日の同じ勞力費は百馬克に達してゐる。換言すれば賃銀は十倍昇騰したに過ぎないが勞力費は十七倍に暴騰した然れども之を弗に引き直せば勞力費は戰前より若干高くなつた位であつて即ち戰前の一弗五〇仙に對し約一弗六〇仙ばかりに當つてゐる。獨逸に於ては大差を示して居るが這は全然馬克の低廉なるを意味するものであることを切言して置く

五、生産費低減不可能

價格は生産費に依るものである。而して獨逸に於ては生産費の低減は少くとも、今年後半期間は出來兼ねるかの觀がある。賃銀は殆んど減少の傾向なく又通貨の膨脹止まざる間は到底之を低減することは出來ない。税金は(石炭税を含む)一般に増加せらるべく鐵道運賃率も上向きの状態である、又輸出税は今正に實施せられてゐるが此等の要因は相合して生産費低減不可能の結果を生ぜしめてゐるのである。

右の結果として一ヶ年以前に於ける獨逸の鐵鋼價格と諸外國の價格との大差は驚く程接近し或る場合に於ては全然同一線上にあるものもある(委細は第二表に示せり)銑鐵の價格は第二表の(一)に示せるが各國とも同様なる數字を示してゐる。

第二表の(一) 價格比較

| 品別 | 一九二〇年三月の價格 | | 一九二一年五月の價格 | | 於ける減少額 |
|--------|------------|------|------------|------|--------|
| | 馬克 | 弗 | 馬克 | 弗 | |
| ルース石炭 | 二五〇 | 四〇〇 | 三三三 | 三七一 | 一八 |
| 爐用骸炭 | 三三三 | 五三三 | 三三七 | 五三三 | 五 |
| 第三號鑄物銑 | 一六六六 | 二六二七 | 一四八四 | 二七三四 | 一三 |
| ピレット | 二二六〇 | 三六六四 | 一七〇〇 | 二七一〇 | 五九〇 |
| 厚板 | 三三四〇 | 五二二〇 | 二九四〇 | 四一八〇 | 五二〇 |
| 棒 | 二六六〇 | 四二四〇 | 二〇〇〇 | 三二〇〇 | 六六〇 |

拔萃 改造中の獨逸鐵鋼業

第二表の(二) 英、米、獨、白、本年五月の平均價格比較(弗換算)

| 品別 | 獨逸 | 米國 | 英國 | 白國 |
|--------|-------|--------|-------|-------|
| ルース石炭 | 三、七一 | 二、七五 | 六、二五 | — |
| 爐用骸炭 | 五、二三 | 三、二五 | 八、〇三 | — |
| 第三號鑄物銑 | 二二、七四 | *二二、五〇 | 二六、〇〇 | 二二、一〇 |
| ピレット | 二七、二〇 | 三七、〇〇 | 五〇、〇〇 | 二五、八〇 |
| 厚板 | 四七、〇五 | 四九、二八 | 七六、二九 | 四七、〇〇 |
| 棒 | 三二、〇〇 | 四七、〇四 | 五四、二〇 | 三三、五〇 |

備考 *印はヴァレー第二號鑄銑にして歐洲の第三號鑄物銑と同等なるもの

五月末日の爲替相場にて一馬克は約〇弗〇一六

厚板の價格も英國を除いては殆んど同一である、獨逸特製の一たる半成鋼に於ては尙著しき利益を握つてゐるが又勞力費を多く要する、棒、ワイヤー、薄板及此れに類する製品に於ても他國に比して利益を占めてゐる、之に反し炭價は罷業前の英國の相場より低廉ではあるが米國に比すれば高價である、第二表に與へたる數字は本年五月の状態を示すものであつて、爾來更に減額行はれたるも一般状態には大した變化はない。尙一噸に付一弗の値下は獨逸貨幣にして六十馬克の値下に相當し六十馬克は獨逸一日の勞銀たることを記憶せねばならぬ。一九二〇年三月三十一日より一九二一年五月二十日までの十四ヶ月間に於て英、米、獨の價格がどれ丈低下したかを弗にて示せば次のやうである。

各國減少額比較

| 品別 | 獨逸 | 米國 | 英國 |
|----|------|------|------|
| 石炭 | 〇、一九 | 五、二五 | 六、〇〇 |

| | | | |
|-------|-------|-------|--------|
| 爐用 骸炭 | 〇、〇八 | 七、七五 | 二、三八 |
| 鑄物 鐵 | 二、四三 | 一九、五〇 | 一、二、九〇 |
| ピレット | 九、四四 | 二八、〇〇 | 五〇、〇〇 |
| 厚板 | 八、一五 | 一八、〇〇 | 五五、一三 |
| 棒 | 一〇、四〇 | 二〇、一五 | 五六、六七 |

昨年獨逸は主として瑞典及西班牙より六百十萬噸の鑛石を輸入したが低落せる馬克を以て之れが代金を支拂はねばならなかつたのも價格昇騰の一原因である。獨逸は製産鐵各一噸に對し鑛石約一噸を輸入したことが認めらるゝであらう。獨逸は亦一九二〇年に於ては戰時中購入せる瑞典鐵鑛石に對し二十五億馬克の債務を負うて居つた。既に其の三分の二は償却したが獨逸會社の株式が何れも瑞典に交付せられたかは不明である。鑛石代金を支拂はなくてはならぬ獨逸の鐵鋼業者は輸出の機會に遭遇する時には、世界の價格と同一のものを要求する刺戟を有してゐる。換言すれば獨逸は二ヶ年間の經驗に依り外國貿易に際しては、價格を世界のものと同一にすべき必要を悟つたのである。以上述べ來つた議論の要旨は、「諸外國に比し勞働者は勤勉である」と云ふ長所を除いては、目下獨逸の有する利益は總べて一時的のものである」と云ふに歸着するのである。されば亞米利加の鐵鋼業者が現時の能率を保持する以上は獨逸の競争に對して敢へて恐るゝ必要はない

六、機械の價格低廉

機械方面に於ける獨逸價格の利益は顯著である、例へば精巧なる機械には多大の勞力を要するを以て獨逸の生産者は之れが爲め低廉なる馬克の利益を十分に獲得するの機會に遭遇してゐる。上等水壓機の現在價格は一封度に付約九仙、一英

噸に付二百弗(戰前は百五十弗)の安値を稱へてゐるが米國に於ける同種機械の價格は少くとも此の倍額である。斯かる價格の結果として多數の獨逸機械製造所の操業状態は鎔鑪爐或は製鋼所よりも良好である。さればクルップ會社は從來の商策を一變し、多量の鋼鑄物、鍛鍊物及び其他半製品の販売を止めて、機關車、發動車、農機具及び活動寫眞機の如き高級品の製造に力を集中するに至つた。クルップ會社の新機關車工場はロシア鐵道より多量の注文を受け月二十臺の機關車を製出して居る、又其の新農具工場(最初の黒心可鍛鑄物工場を含む)は全力を擧げて生産に努めてゐるが獨逸の機械工場は總べて左様である。世界の貿易戰に於て多額の利益を占むる好機に座してゐるのは獨逸の機械輸出市場である。

七、輸出の激減

偕て立ち戻つて鐵鋼の壓延品に就て觀るに前述の基礎的三要素即ち生産、賃銀及び價格の齎したる結果は戰後の鐵鋼輸出統計數字に依りて明かである。一九一三年に於ては獨逸は五百六十六萬四千噸の鐵鋼を輸出したが現状の下に在りては再びかゝる多額の輸出を見ることは不可能である、戰時中輸出は皆無であつて一九一九年に至り十二萬五千噸を輸出し一九二〇年には、低廉なる價格の刺戟と需要の増加と又周圍の必要とに依り大いに増進し合計六十萬噸に達した(政府の統計に依る)昨年より獨逸の價格は世界の價格と殆んど同様になり、又鐵鋼の需要著しく減少したる爲め輸出額は激減するに至つた。

現時の状態では年百萬噸を超過することはあるまい、比較の爲め英、米の輸出率に就いて觀るに、本年に於ける米國の

輸出額は年初三ヶ月間の數字を土臺として四百五十萬噸に達すべく、又英國は現狀の下にても年三百萬噸には達するであらう、獨逸は目下船尾追隨の狀態に在ることは明である、然れども若し順風に遭ふとせば譬へ英、米兩國には追ひ着かずとも現時の逆境より著しく脱出することを得ん。

(獨逸輸出額の詳細は第一表に示せり)

八、勞働狀態の改善

獨逸工業の回復と輸出額の増加は昨年よりも頗る好望なる勞働狀態を齎したのである。昨年の勞働狀態は殆んど忍び難き程であつて、四月及び五月のウエストフリアの勞働保險は其結果の一であつた。著しき目下の善化は、食料品の生産増加、食料品輸入増加、生活費の低下及び失職狀態改善等の結果である。伯林に於ける物價指數は最頂點に達した昨年十二月の一、二〇〇に對し本年五月には一、〇五〇に落下せるが其の減少率十二パーセントを示してゐる。政府は尙食料價格に對し巨額の補助金を與へてゐる。絶えず進行しつゝある通貨の膨脹は此れが爲め一時緩和せらるゝとも若し國家が借金せずに立たんと欲するならば斯かる補助金は終には廢止せねばならぬものである。勿論其の廢止に就ては目下協議中である、而して之れが廢止を見るときには食料の價格は一時騰貴することあるべく、兎に角物價下落の停止するは確である。其の結果として前に述べたる如く獨逸勞働者の生活標準著しく低下し居るが爲め勞働爭議の勃發に就いては否定し去ることとは出来ない。

炭坑夫は目下一日六時間制に對して運動しつゝあるが其の宣傳は力拔けの氣味である。去る五月十日坑夫は傭主と新協

約を結び其の結果週作業時間は四十二時間より四十五時間に延長せられ、同時に餘分の三時間に對しては二倍の賃銀を仕拂ふやうに協定せられたのである。傭主は一般に此の増し勤務の費用を避くるに努めてゐる。目下獨逸に於ては各種工業を通じ(鎔鑛爐を含む)實際の基本時間ではないが一般に八時間作業行はれてゐる。傭主は總べて勞働組合が長時間の勤務を避くる爲め立案したる強制一日八時間制を利用してゐるのである。

以上述べ來りたる事實の結果として失職者は著しく減少し總計七十五萬人位であつて主都伯林の失職数は内八萬人である。之を英國の二百十二萬五千人(炭坑夫の百二十五萬人を除く)米國の三百五十萬人に比すれば實に雲泥の差がある。獨逸國民は働いてゐる。何づれの國民よりも努力してゐる。之れ獨逸が再興の機運に向ふべき一大動力にして又最も頑強なる城壁も茲に在りと信ずるのである。最近歐洲より歸朝したるチャールズ、シユワツプ氏は「獨逸の勞働者は有爲である獨逸の勞働者は職に熱心である、獨逸の勞働者は一日の給料に對し一日の勞働を十分に提供してゐる、何づれの國を問はず隆盛の基礎は茲に在るのである」と言つたが余も亦同感である。

戦争の終熄當時勞働組合に依りて廢止された請負手間賃拂制度は再び普く見るやうに至つた。然れども組合は尙強固にして合衆國で見慣れてゐる自由勞働と云ふものは獨逸に見ることとは出来ない。獨逸の製造業者は職工の能率戰前に比し遜色あるを見て勞働組合を叱責してゐる。一方、一年前には法律に依りて多くの權限を與へられた職工會議(Betriebsrate)なるものがあつて彼等はソグアイエツト組織の工業管理を現出

することもあらんかと一時危ぶまれたるも其處までは到らなかつたやうである、現在では職工會議に就ては殆んど聞くことはない。

獨逸の鐵鋼價格が世界の價格と大差なきに至つたことに就ては既に述べたるが此の現象に就き論ずべき一要素が残つてゐる。即ち今尙止まぬ通貨の膨張である。印刷局は多忙を極めてゐる、帝國銀行の紙幣發行高を平時の爲替相場にて磅に引直して見るに、昨年一月中には十八億四千九十六萬六千磅を算したが、本年一月には三十二億七千五百五十二萬三千磅に達してゐる。其の後更に増加したことは勿論である。斯かる法外なる通貨の膨張が工業及び生活費並に物價に及ぼしてゐる結果は實に慘憺たるものである。

獨逸人は、急激なる税金の増加を萬不得已ものとあきらめてゐるが、税金の増加は生産費の増加を惹起し又輸出額を抑制するに至るであらう、然れども獨逸は本年度の豫算に於て賠償金を合し、八六、五〇〇、〇〇〇、〇〇〇馬克(一、三八〇、〇〇〇、〇〇〇弗)の不足を生じてゐる。これ「仕事に熱心なる」獨逸國民の重荷である。

此の不足額の一部は昨年四十億馬克(六千四百萬弗)の負債を生じたるプロシア鐵道操業の結果である。此の損失を埋合せる爲め運賃率は四月より六割五分値上され、又高爐及び製鋼所用の燃料に課する特殊貨物運賃は五割五分値上せられた其の他も値上さるる見込であるが此等は總べて生産費に於ける重要な要素である、又運賃率は直接輸出價格に影響を及ぼしてゐる。輸出銑鐵に對する獨逸の鐵道運賃率は戦前の十三倍、厚板は三十二倍、鎖は五十倍となつた。

アルサス、ローレンヌ割讓の結果は言ふ迄もなく驚くべき資源を喪つたが、同地方の製鐵所及び製鋼所々有者は政府より賠償を受くるやうになつたが、其の額合計十九億馬克(三〇〇、四〇〇、〇〇〇弗)に達してゐる。而して此の金は二ヶ年以内、ラインの安全地帯に於ける獨逸工業に再び投資する條件の下にて支拂はれたのである。

九、資本家の聯合

獨逸の資本家特に鐵鋼業方面に於ける資本家は、當面の難問題に打ち勝たんが爲め數ヶ月以前より聯合若くは合併して大いに活動してゐる。此等の内最も著名なるものは、スチイエス團にして通例ジイメンズ、ラインエルベ、シユクカイト(Siemens Rheineloschuckert)組合と稱せられ約五億馬克(八、〇〇〇、〇〇〇弗)の資本を擁して居る。其の他の主なるものを擧ぐれば次の如くであつてウエストフアリアの大鐵鋼工場殆んど全部を含んで居る。

- | | |
|------------------|--------------|
| 一、ギエーテホーフマングス製鐵所 | 二、クルツプ |
| 三、クロツクナー | 四、チツセン |
| 五、スタム | 六、フォエニツクス |
| 七、ホーシ | 八、獨逸機械工場 |
| 九、ライン製鋼團 | 十、シャールツテン製鐵團 |
| 十一、ローヒリング | 十二、ヘンシエル |

右合併會社の組織は、合衆國スタイル、コーポレーションの鞏固なる組織に比すれば、放縱の非難は免れざるも、日を経るに従ひ完全なる組織を見るであらう。

十、結 論

獨逸は各方面に大に努力してゐるが此の努力は労働者の勉勵と相俟つて好結果を收めてゐる、然れども道は遠く且つ峻

岨である、而して國と其の産業は尙ほ戦争の蔭影内に横つてゐる、獨逸の状態は尙戦時の變體を顯はしてゐるのである。「戦前は、これはかうであつた」とは屢々聞く詞であるが此の知らず知らずの會話中に獨逸の状態が表はれてゐる。

現状は未だ獨逸及其の諸工業に取つては平和時とは云へない、然れども昨年に比すれば餘程好化し其の改善程度は肉眼に映ずる程である、而して不斷の勉勵努力と質素儉約とを忘れずば國は年を追うて善化し行くであらう。獨逸の状態斯くの如きものあるは誠に幸である、何となれば獨逸の繁榮は世界の繁榮を意味するからである。(完)

賃銀を減すべきか否多く働かすべきか

(マクスウェル、ドロウク氏述 二年二月)
Industrial Management

二三週間前の事であつたが合衆國東部の或る製造業者は生産高を一〇パーセント丈に減少せなければならなくなつた、之れは主として次の三要件に基いたもので、一、需要の弛緩、二、原料品買入の困難、三、輸送の不如意である。

其處で此會社は慣例の處置として減首を行つた、其れには給料支拂簿を仔細に點檢して、十人に一人の割合に罷めさせて豫定の減員を遂行した。然し之れで理論通りの結果を得る譯に行かなかつた、其の實際は一〇パーセント減員して操業したにも拘らず生産高は却て一八パーセント増加したのである、會社は再度使用人の節約をしたが、猶生産高を著しく減少する事が出来ない、而して終に生産高を一〇パーセント丈

け減少させたが其には三〇パーセントの減員を行はねばならなかつたのである。

此れは何うした譯であるか。我々は之れから唯一の斷案を得るのである。實際勞働者は「一日分の支拂に對して一日分の働き」と云ふ事を尊重する様になつたからだ、勞働者は、彼の仲間が各方面から追ひ放たれて行くのを見ると、痛切に感じて所定の時間は決して仕事以外に費してはならないと思ふ。今は最う骨惜みして居るべき時代ではない。勞働者も最早暢氣に過ごして行かうとは考へてゐない。まごまごしてゐては不安だから忙がしく生産に従事する様になるのである。

最近異常な繁榮期に際して、勞働者と親密に觸接してゐた吏員で相當思慮ある人は何れも認めてゐた事であるが、當事渾沌たる状態は國中に瀰漫してゐたのである。多くの例に見るに勞働者は技倆の如何に拘らず何れも少し働いて多く貧つてゐた、而して誰も失業の事等は餘り心配しなかつた、勞働者の數より仕事の方が多かつたからである。

二三箇月前の事であるが或る大きな請負師が打明けた話に依ると彼は實に絶望の地位に立つてゐる様である、彼の言ふには賃銀が理由なしに高いものだから一般の人は家を建てる事が出来ない。勞働者は法外の賃銀を要求獲得してゐる計りでなく賃銀に報ゆる丈働かないのである。二三年前には煉瓦職人に或る金額を支拂へば毎日一定の煉瓦を積んで呉れるに極つてゐたが、今や賃銀は當時の二倍以上に上つてゐるが多くの働いたと云つても以前の半分しか積んで呉れない。之れが請負師の歎聲である。

然しながら勞働状態は振子が極めて正確に振る様に、左へ